

PREMISs 評価レポート

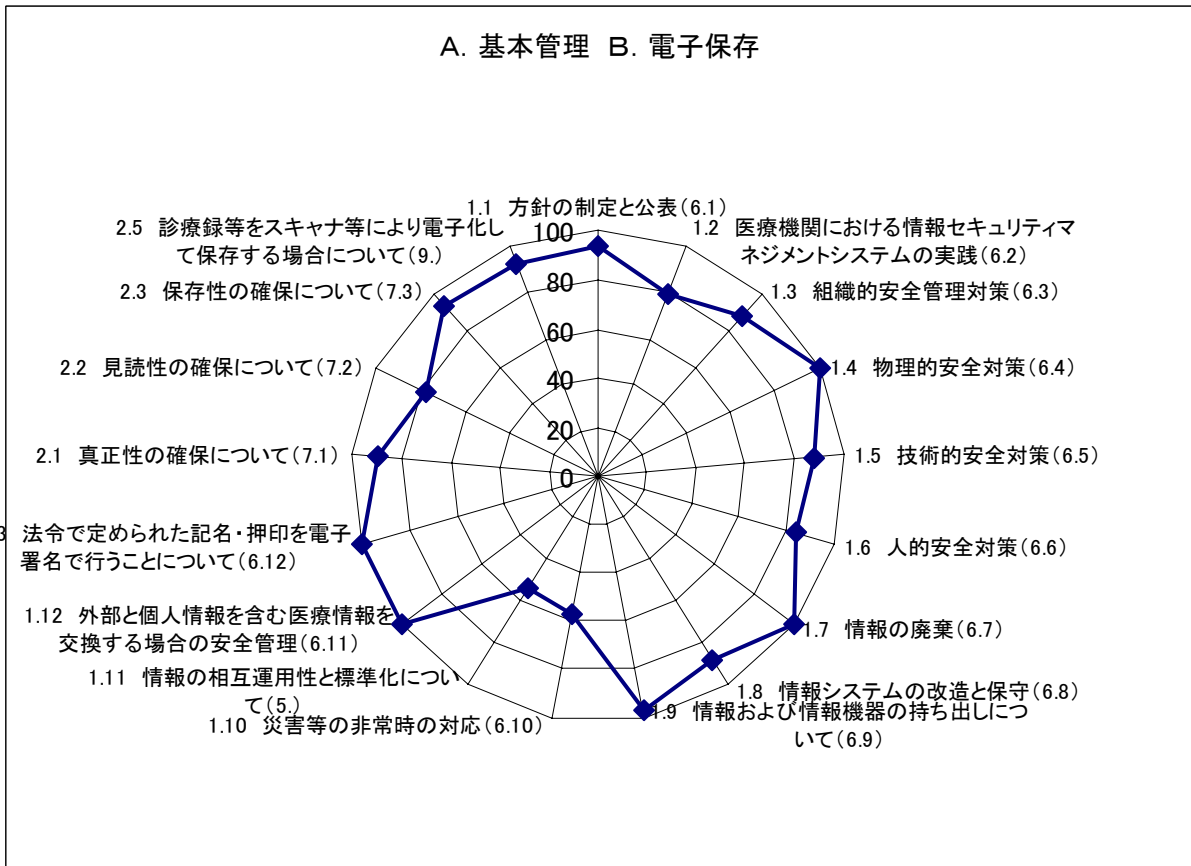
■ 認定証

認定番号：SSB-001a1-20091130
適用指針：「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」第4版
事業者名：日本赤十字社 名古屋第一赤十字病院
代表者名：小林 陽一郎（院長）
評価対象：名古屋第一赤十字病院病院情報システム
認定条件：認定附属書 SSB-001a1-20091130-1 による
認定日：平成21年11月30日
レベル：A

■ 認定証附属書

附属書番号：SSB-001a1-20091130-1
事業所：名古屋第一赤十字病院（愛知県名古屋市中村区道下町三丁目35番地）
運用責任者：小林 陽一郎（院長）
システム管理者：錦見 尚道（血管外科部長）
適用管理：A. 基本管理 B. 電子保存
評価対象：名古屋第一赤十字病院病院情報システム
基幹システム：MegaOakHR3.0.4（NEC）
評価範囲：院内ポータルシステム・電子カルテシステム・医事会計システム
・物流管理システム・DWH・病床管理システム・放射線画像管理システム
・放射線読影レポートシステム・クリティカルドキュメントシステム
・健診システム・臨床検査システム・地域連携システム・放射線情報システム
・輸血管理システム・栄養指導システム・栄養給食管理システム
・文書作成支援システム・看護勤務システム・生理検査システム
・内視鏡システム・眼科システム・麻酔記録システム
・ICU・救命ICU重症支援システム・NICU重症支援システム
認定日：平成21年11月30日

■ レーダーチャート



PREMISs 評価レポートの見方

■認定証：認定証の内容を示す

認定番号：識別（英3）＋施設（数3）＋システム（英1）＋更新回数（数1）＋認定日（数8）

識別コード：英字3文字 SSB SBC SSC（運用管理の組み合わせ AB, ABC, AC）

施設コード：数字3桁（開始001、永久番号）

システムコード：英字1桁（開始a）、システム変更毎に変わる

更新回数：数字1桁（開始1）、システム毎の更新回数

認定日：数字8桁

適用指針：準拠した安全管理GLのバージョン

事業者名：施設の正式名称

代表者名：法人の長または病院長名

評価対象：認定したシステム全体の名称

認定条件：附属書番号

認定日：評価委員会での合格日

レベル：対応レベル 以下の3段階。

A：必要十分な安全管理を実施し、説明責任を十分に果たしている

AA：上記に加え、管理責任、改善を行う責任を十分に果たしている

AAA：上記に加え、事後責任を十分に果たしうる状態にあり、現状で最高レベルの安全管理措置（組織的、技術的）を実施している

※AAA以上はマネジメントシステムが機能していることが求められるが、マネジメントシステムや運用ルールを根付かせるには時間が必要なため、施設も制度も円熟しないと達成できない。従って当面は、Aが最高ランク。

■認定証附属書

附属書番号：認定番号-1

事業所：事業所の名称と所在地

運用責任者：安全管理GLの求める運用責任者の氏名（役職）

システム管理者：安全管理GLの求めるシステム管理者の氏名（役職）

適用管理：適用管理対象を表記 A. 基本管理 B. 電子保存 C. 外部保存

評価対象：認定したシステム全体の名称

基幹システム：基幹システムの商品名、バージョン（ベンダー名称）

評価範囲：以下の観点で決めた評価範囲システム名称を列記する

①医療情報を直接取り扱う

②安全管理GLで求める安全管理対策を実施

③病院が管理権限を持っているシステム

認定日：評価委員会での合格日

■レーダーチャート

レーダーチャートは、自己評価ファイルの中項目（2桁項番）毎の最終評点を、中項目毎に表示している。レーダーチャートにより安全管理対策のバランスに偏りがいないか確認できる。

*評価は、大項目（1桁項番）、中項目（2桁項番）、小項目（3桁項番）に分け評価する。原則として各評点は+1桁項番の評点を合計し、設問数で割った値を各評点とする。つまり、小項目の評点は、小項目中の評点（4桁項番）を合計し、小項目中の設問数で割る。中項目の評点は、小項目（3桁項番）の評点を合計し、小項目の設問数の合計で割る。大項目の評点は、中項目の評点を合計し、中項目の設問数で割ったものである。評点は、原則として評価区分毎の達成率（充足率）を表示するが、各設問には重要度に応じて重みが付けられているので、単純な達成率ではない。

以上